

小児と
大人の

2020年04月06日 ver.

新型コロナウイルス感染症 COVID-19 初期診療の手引き



感染症倶楽部

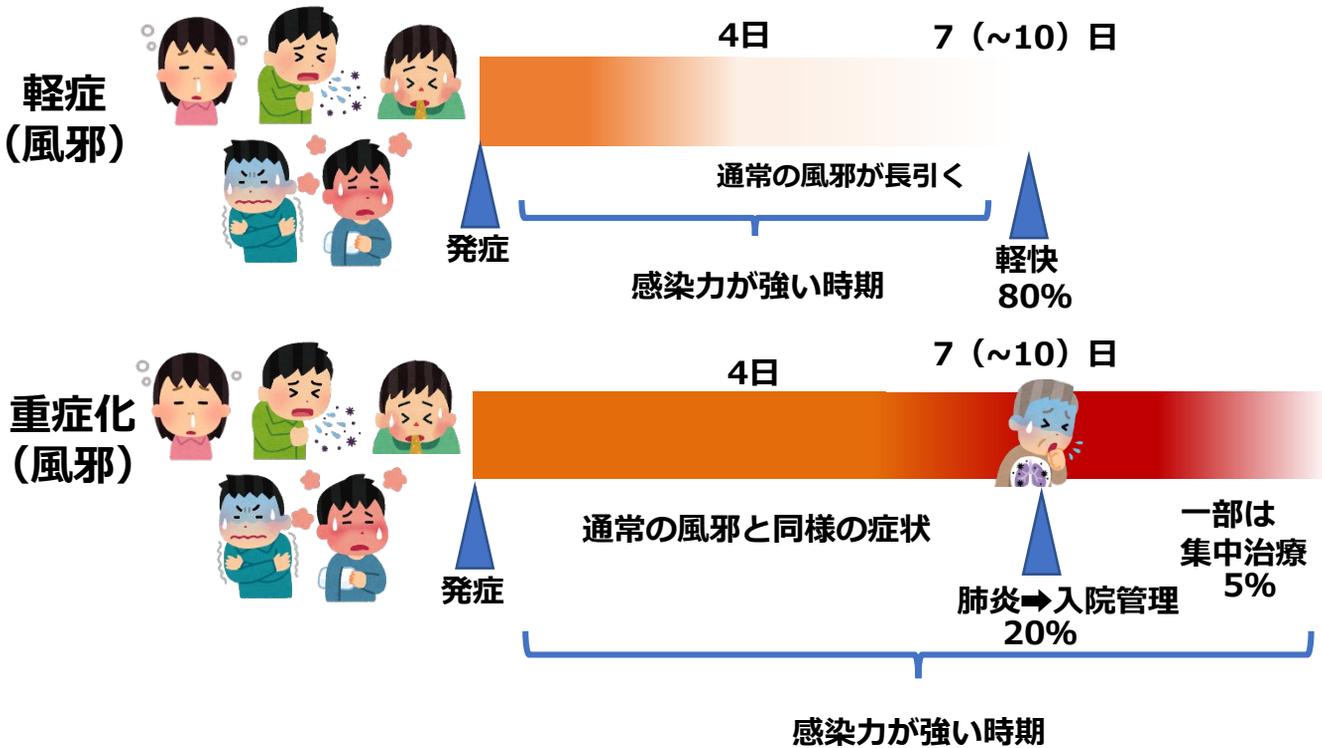


新型コロナウイルス感染症に関するQ&A (2020年3月11日)
診療所・病院のプライマリ・ケア初期診療の手引き ver.1参考にして
感染症倶楽部 統括代表 & ながたクリニック 院長 永田が自院用に
一部加筆してミニマム作成。(2020年03月14日)



新型コロナウイルス
対策ダッシュボード
(国内流行状況)

新型コロナウイルス感染症の一般的な経過



1. 感染から約5日間 (1~14日間) の潜伏期を経て、
2. 感冒様症状 (発熱, 咳, 喀痰, 咽頭痛, 鼻汁など) や倦怠感が出現し、
3. 一部の患者では嘔吐, 下痢などの消化器症状を呈することもあり、
4. それら症状が比較的長く、約7日間持続する。

注! 発熱 (体温) がそれほど高くないのに倦怠感が強いことがある
→通常の細菌性肺炎でも高齢者は強い倦怠感のみで発熱がないことが多い

普通感冒 (かぜ) やインフルエンザ, 急性胃腸炎 (ノロウイルス感染症など) では発症から3~4日目までをピークに改善傾向に転じるのが一般的ですが、新型コロナウイルス感染症では、それらよりも症状が長く経過するという点で異なる。

さらに、症状が7日間前後続いた後に、次のような経過をたどる。

5. 約80%の患者は、自然に軽快して治癒する。
6. 約20%の患者は、肺炎を合併する。
特に、高齢者や持病のある方などは肺炎を合併しやすい。
7. 肺炎に進展した患者のさらに一部が、重症化して集中治療や人工呼吸を要する。

ただし、新型コロナウイルス感染症であっても発症7日以内の早いタイミングで肺炎に至ることもあり、特に、高齢者や基礎疾患を有する患者又は妊娠中の女性では、発症直後に肺炎に至ることもあるため要注意となる。

風邪症状医療機関受診 フローチャート

2020年04月06日作成
感染症倶楽部シリーズ 統括代表
ながたクリニック 院長 永田

- A** # 風邪症状が4日以内で医学的重症でない方
風邪症状が5日以上~2週間以内ほど続くが、医学的重症でない方
(高齢者、基礎疾患・妊婦の方は2日以内)
(医学的重症：右記のような症状のある方)



医療機関に受診せず、下記を十分に読んで理解していただき、自宅休養



リーフレットを読んで頂いたうえで、症状が辛い、心配な点がある場合、症状が変化した場合、かかりつけ医に電話相談。



長期症状・医学的重症となってきた場合にはB~Fでの対応に
適宜対応!



感染拡大予防のために軽症であっても必ず事前に電話相談とし、直接窓口受診はしないでください。



F 新型コロナ相談窓口や地域総合病院でかかりつけ医に相談受診とされた場合

感染症拡大防止に ご協力ください

風邪症状での医療機関のかかり方

おねがい



新しい知見や状況変化により対応などは適宜変化しますので御理解ください。



【新型コロナ感染症リーフレット】

2020年04月06日更新
感染症倶楽部シリーズ 統括代表
ながたクリニック 院長 永田



- B** 強い息苦しさやひどいだるさ(倦怠感)や食欲不振、意識障害、それに伴う転倒などがあるような重症の方

重症の病気である場合が考えられ、詳しい検査や入院管理が必要な可能性があり、診療所では対応できません。安易な受診が感染拡大となるおそれもあります。

重症の病気：
肺炎・腎盂腎炎・前立腺炎・肝膿瘍・胆管炎・感染性心内膜炎などやそれらに伴う敗血症などの可能性。
また、転倒や呼吸困難の原因が、新型コロナによる可能性も。

直接の受診や複数の医療機関への受診が感染拡大や診断の遅れになることもあります。

そのため、詳細な症状の事前の電話相談をして頂き、受診すべき医療機関の判断。指示などを受けての対応が必要になります。

かかりつけ医 地域総合病院 新型コロナ相談窓口



かかりつけ医に受診される前に必ずお電話願います。
軽症であっても必ず事前に電話相談とし、感染拡大予防のために直接窓口への受診は控えてください。



- C** # 2~4週間以内の鼻炎、咽頭痛、咳、発熱、味覚障害・嗅覚障害のある方
風邪症状や37.5℃以上の発熱、もしくは
高齢者で平熱より1℃以上高い発熱が4日以上続く方
(高齢者、基礎疾患・妊婦の方は2日以内)

感染指定病院への受診を指示された場合には、受診される前にその施設に必ず電話をし、直接窓口への受診はしないでください!



指示1

感染指定病院への受診を指示された場合には、受診される前にその施設に必ず電話をし、直接窓口への受診はしないでください!

指示2

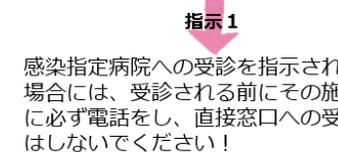
新型コロナ相談窓口や地域総合病院でかかりつけ医に相談受診とされた場合



お電話で詳細をお聞きし、症状相談での対応可能か、診察対応が可能かどうかなどの医学的判断させて頂きます。

- D** 2~4週間以内の海外渡航歴、県外からの移動歴のある方、また、家族や知り合いにそのような方がおられ、接触歴のある方

感染指定病院への受診を指示された場合には、受診される前にその施設に必ず電話をし、直接窓口への受診はしないでください!



指示1

新型コロナ相談窓口や地域総合病院でかかりつけ医に相談受診とされた場合

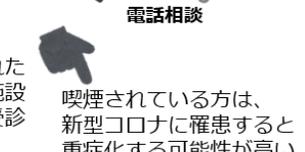


新型コロナの発症予防にBCGワクチンが効果があるかもしれないという研究が欧米でされ始めています。欧米では日本と違い定期接種されていないためです。日本では重症結核感染予防のために1歳未満に定期接種されており、その分だけの生産としています。日本人の1歳未満以外への効果も重大な副作用も不明ですので自分達だけでも医療機関に接種希望受診する事は控えてください。

そのうえで再度、新型コロナの可能性が高いと医師が判断した場合には、かかりつけ医から専用窓口へ再度、連絡し対応をお願いすることもあります。

- E** # 4週間以上風邪症状が続くも医学的重症でない方
不安が強い方

かかりつけ医・診療所



喫煙されている方は、新型コロナに罹患すると重症化する可能性が高いとされています。電子タバコであろうと禁煙しましょう!



電話相談



おねがい

「新型コロナ相談窓口」に電話相談すると、担当者から症状の経過や持病の有無などを詳細に質問されます。

その上で担当者が、受診が必要かどうか判断し、受診する場合は指定専門病院とかかりつけ医療機関のどちらがふさわしいかを判断します。担当者の判断と指示にしたがって行動してください。



受診する場合は、医療機関に種類に関係なく、**事前に必ず電話連絡をして相談**をしましょう！**直接受診されると感染拡大のリスクとなります。**たとえ咳やくしゃみがなくても必ずマスクをつけてください。また、担当者から指示された医療機関以外には決して受診しないでください。



マスクがどうしても手元にない場合には、**受診される前に事前に必ず電話連絡**ください。

マスクは医療機関でも枯渇している状態にて、仕方なくハンカチなどで手作りをして皆、自分用に各自努力をしている状態です。

注！マスクは正しく装着しましょう！



診察前には、特に小児の患者さんにジュースや食べ物を極力与えないようにしてください。診察時に嘔吐し、感染を拡大させるリスクとなります。



風邪症状の患者さんは、電話対応もしくは、隔離しての対応&診察となりますので隔離する準備ができるまで車などでの待機をお願いすることもありますのでご協力ください。

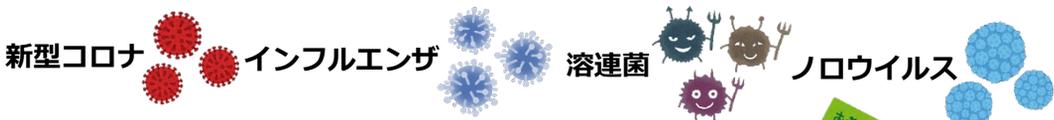


電話で事前に必ず確認したいこと：場所や症状の程度で自己判断せずに必ず報告願います。

本人や同居家族の発症2(~4)週間以内での県外・国内外の流行地域を含めた移動・渡航歴の有無



周囲の流行疾患や発熱患者との接触の有無、新型コロナウイルス感染者との接種歴



現在、治療中の病気の名前と薬の内容の書いた薬情・お薬手帳持参



風邪症状での医療機関受診に関して

風邪症状が軽い、早期のとき

- # 普通のかぜも新型コロナウイルス感染症も、症状が出てから最初の数日（1～4日）は区別が付きません。
- # 症状が出てすぐに受診しても、インフルエンザも新型コロナウイルスなどの感染を診断することも、違うと診断することも困難なのです。
- # 通常の診療所や病院では、新型コロナウイルスの検査はできません。仮に新型コロナウイルスと早く診断できたとしても、肺炎になったり重くなるのを防ぐ治療薬などありません。
- # 症状や問診だけやPCRの診断結果が陰性であろうと、新型コロナではないという診断書をお出しすることはできません。感度は70%程度。
- # また、新型コロナウイルス感染症の大半は風邪のような軽い症状のまま自然に治ってしまいます。
- # そもそもインフルエンザの迅速検査は、悪寒、発熱、関節痛、鼻炎、咳などの症状が出現して、24～48時間経過で最大感度60%ほどでしかありません。
- # 新型コロナウイルスはエアロゾル感染というものを起こすとされます。現在、一般の診療所や病院では感染拡大のリスクがあるためにインフルエンザや溶連菌、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルスなどの検査は実施しないことを推奨しています。
- # もし、迅速検査を実施する場合には、N95マスク、ガウン、フェイスシールド、グローブの感染予防装備をしたうえでの実施が必要となりますが、一般の医療機関には現在、入らない状態となっているのが現状です。
- # 病院などで行うネブライザーなども感染拡大のハイリスクとなるため、必須治療でない限りはしないようにすべきとされています。
- # ハイリスクの方の場合には、症状や咽頭所見などで臨床的インフルエンザとして迅速検査なしで総合的に診断してタミフル®を処方することもあります。
- # 風邪症状がある時に外出したり受診すると、外出先や待合室で感染を広めるおそれがあります。そのため、風邪のような症状が出て、最初の数日間は受診せず、仕事や学校をできる限り休んで外出を避け、自宅療養してください。



自然治癒

感染予防装備なし
迅速検査不可

感染予防装備あり
迅速検査可

自然治癒

- # 自宅療養の期間は、一般の方は4日間。ご高齢の方、持病がある方、妊娠中の女性は2日間です。



- # 自宅療養中は、1日数回体温を測り、手帳やノートに体温と測った時間を記録してください。
- # 自宅療養に不安があるときは、感染症の知識のある医療機関やかかりつけ医などでまず電話で経過を伝え、アドバイスをもらうようにしてください。



電話相談

成人・学童：症状が4日以上
高齢者，持病，妊娠：2日以上

症状が続いたとき

「帰国者・接触者相談センター・新型コロナ受診相談窓口」に電話相談してください。



自宅療養を行うと、新型コロナウイルス感染症ではないその他のかぜであれば、通常は3-4日間で症状はあるにしろ軽減し、次第に自然に治ってきます。



もし、4日以上症状の強い風邪の症状（発熱，咳，のどの痛みなど）が続いた場合は、または4日未満でも呼吸が苦しくなるなど悪化する傾向があれば、新型コロナウイルス感染症などを疑う必要があります。



ご高齢の方，持病のある方，妊娠中の女性は，新型コロナウイルス感染症が悪しやすいとされています。それらの方々は，かぜの症状が2日以上続いた時点で，新型コロナウイルス感染症に注意する必要があります。



受診の仕方

「新型コロナ相談窓口」に電話相談すると、担当者から症状の経過や持病の有無などを詳細に質問されます。

その上で担当者が、受診が必要かどうか判断し、受診する場合は指定専門病院とかかりつけ医療機関のどちらがふさわしいかを判断します。担当者の判断と指示にしたがって行動してください。



受診する場合は、医療機関の種類に関係なく、事前に**必ず電話連絡をしてから、指示を受けてください。**くれぐれも直接受診しないでください。感染拡大のリスクとなります。たとえ咳やくしゃみがなくても必ずマスクをつけてください。また、担当者から指示された医療機関以外には決して受診しないでください。



乳幼児の場合



新型コロナウイルス感染症に関するQ&A（2020年3月3日）
日本小児学会 参考にして感染症
倶楽部 統括代表 &ながたクリニック
院長永田が自院用に一部加筆して
ミニマム作成。（2020年03月14日）



厚生労働省からの新型コロナウイルス感染症を疑う基準では、「37.5℃以上4日」とありますが、この基準では、乳幼児の「風邪」の多くが当てはまってしまい適用することはできません。ゆえに下記の基準を参考に対応してください。

鼻炎、鼻閉、咳、発熱、嘔吐などの軽症、早期の風邪症状

数日で解熱したり、鼻炎や咳があっても元気になっているときは自宅で休養としてください。乳幼児のお子さんの風邪は1週間～2週間ぐらい続くことはよくあり、繰り返すこともあるのが通常です。一般の医療機関や休日夜間急病診療所等を受診しても、インフルエンザや溶連菌、RSウイルス、ヒトメタニューモウイルスなどの迅速検査はできません。むしろ受診によって新型コロナウイルスをはじめ多くの感染の機会を増やす危険性があることを念頭におく必要があります。

3か月未満の乳児のお子さんやヒブワクチン®やプレベナー13®などのワクチンを未接種の乳幼児は発熱が数日続いたり、少しでもおかしいと感じた場合には、小児科医の常駐する医療機関に**事前に必ず電話で相談**し、指示を受けてください。

呼吸が苦しい、経口摂取ができない、顔色が悪い、ぐったりしているなどの症状がある場合

かかりつけ小児科か小児感染症に詳しい医師のいる医療機関に受診前に電話相談のうえその指示に従い、受診してください。



新型コロナ感染者との濃厚接触の場合には、

「新型コロナ相談窓口」に電話相談すると、担当者から症状の経過や持病の有無などを詳細に質問されます。

その上で担当者が、受診が必要かどうか判断し、受診する場合は指定専門病院を紹介します。担当者の判断と指示にしたがって行動してください。



おねがい

診察前には、特に小児の患者さんにジュースや食べ物を極力与えないようにしてください。診察時に嘔吐し、感染を拡大させるリスクとなります。



風邪症状の患者さんは、個々にできる限り隔離しての対応&診察となりますので隔離する準備ができるまで車などでの待機をお願いすることもありますのでご協力ください。



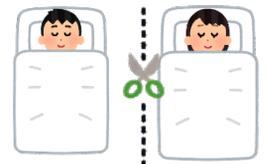
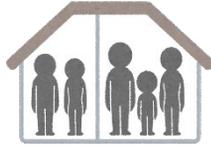
感冒様症状・新型コロナウイルス^{疑い}での自宅療養中の家族内感染の予防策：10カ条

軽症

- ① 感冒様症状の患者は、1～2週間は自宅療養を行い。仕事などは所属される会社と電話で相談をする。自宅ではできる限り家族との接触を避け、食事や寝室、療養する部屋も分ける。



新型コロナウイルス感染症と診断された場合には最低2週間自宅療養。詳細は診断された医療機関の指示に従う。



- ② 看病が必要な場合は、看病する人を限定する（1人が望ましい）。ただし、可能な限り、高齢者、持病のある方、妊娠中の女性には看病させないようにす。



持病

重症化リスクあり



リスクの少ない方が
介助するのがベスト

- ③ 患者と家族はタオルを共有せず、別のものを使う。

- ④ 患者の入浴は最後にする。



- ⑤ 療養する部屋から患者が出るときは、マスクをつけ、部屋を出る直前に15秒以上のアルコール手指消毒をする。（石鹸手洗いでも可。）



- ⑥ 患者が触った箇所（ドアノブや手すりなど）を消毒用エタノールを浸した紙で拭き取り消毒し、拭き取った紙は再利用せずすぐにゴミ箱に捨てる。消毒用エタノール以外にも次亜塩素酸ナトリウム（家庭用漂白剤など）でも可。



- ⑦ 定期的に部屋の窓を開けて換気する。（目安：1-2時間に一度、5-10分間程度）



- ⑧ 患者が使った衣類やシーツを洗濯する際は、手袋とマスクをつけて洗濯物を扱い、洗濯後には十分に乾燥させる。



- ⑨ 患者が出すゴミはビニール袋等に入れ、しっかりと口を縛って密閉してから部屋の外に出す。ゴミを扱った直後はしっかりと手洗いをす。



- ⑩ SNSやインターネット、煽り番組などで情報を得ない！ 惑わされない！ 怪しい情報に振り回されないようにしましょう。残念ながら風邪に効く特效薬はなく、早く治す効果はないとされます。休養に勝る治療はないのです。

SNSで
話題!

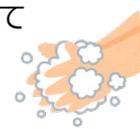


消毒・手洗いに関して

外出から帰った際には、ドアノブや電車のつり革、お金やカードなどいろいろなものを触っていますので手洗いを必ずしましょう。

仕事でも紙や机、パソコン、いろいろなスイッチ、多くのものを触っています。特に医療関係者は、患者さんに触れる前には必ず【1行為1手洗い&消毒】を行いましょう！

手指の消毒・除菌する際には、アルコールが手に入らない場合には、石けんでも可です。



1 行為
1 手洗い&消毒！

石けんでの手洗いやアルコール消毒は正しく行わないと意味がありませんので、正しく行いましょう！

1 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。

4 指の間を洗います。

7 流水で十分に石けんを洗い流します。

2 手の甲をのぼすようにこすります。

5 親指と手のひらをねじり洗いします。

8 ペーパータオルでよく拭き取り乾かします。

3 指先・爪の間を念入りにこすります。

6 手首も忘れずに洗います。

モノを消毒するときにアルコールが手に入らない場合には、次亜塩素酸ナトリウムでも可です。

【次亜塩素酸ナトリウムの希釈方法】

注：子供などの手の届かないところに保管！ →



手指がよく触れるものを消毒する場合：ペーパータオルなどにつけて使用
ドアノブ、窓の取手、手すり、照明スイッチ、テーブル、椅子、机、電話機、パソコンキーボード、マウス、リモコン、水道やトイレの蛇口・レバー、便器のフタ、エレベーターやインターホン、コピー機、ファックス、ゲーム機などのボタンやスイッチ、便座などを消毒する場合



キャップ
1杯 5~6%濃度



0.05%
濃度



金属などをアルコールや次亜塩素酸ナトリウムによる消毒を行うとさびてしまう可能性があるので水拭きのうえ、しっかり乾燥させてください。

消毒に使用したティッシュやペーパータオルなどの紙類は、ビニール袋に入れ、ビニール袋の口をしっかりしめて捨てるようにしましょう。

便や吐物が付着した床やトイレを消毒する場合や衣類などの漬け置き消毒する場合



キャップ
2杯 5~6%濃度



0.1%
濃度



衣類・布団・シーツ・枕&クッションカバーなどは、下痢や嘔吐物、飛沫物などがついている場合には、上記の次亜塩素酸ナトリウムでは色落ちすることになるので、80℃&10分以上の熱湯消毒でも可能です。そのうえで他の洗濯物と分けて、通常の洗濯機で洗うとなお安心です。



熱湯注意

嗅覚障害&味覚障害に関して

新型コロナウイルス感染で、嗅覚障害や味覚障害が比較的早期に自覚症状としてあることが報告されています。しかし、風邪の原因ウイルスでもっとも多いライノウイルスや通常のコロナウイルス、パラインフルエンザウイルスなどでもみられる症状でもあり、特別に珍しいものでもありません。



もしかしら、新型コロナウイルス感染は、人類がはじめて経験するウイルスがゆえなのか、その症状が早く出やすい特徴があるのかもしれませんが、つまり、可能性は否定できないのですが、多くの医療機関では、重症でない限りは検査も入院もすることはできません。

風邪の症状の1つにしかすぎませんが、他の原因で同症状がでることもあります。いずれにしてもあわてる必要は全くなく、症状も自然治癒することも多かったです。

日本全国や周囲に新型コロナが拡大しないようにするためには、この症状が急に出てきたが、他の症状が重症であったり、濃厚接触などが無い限りは、医療機関には受診せずに、1~2週間は仕事や学校はもちろん外出を控えていただくことの基準として頂くものとしてください。

2週間以上症状が続く場合やどうしても不安な場合や判断できない場合には、医療機関への直接受診はせずに電話相談としてください。



【3密】を避けましょう！

集団発生（クラスター）のリスク条件は下記3つの【密】となります、下記の3つが揃ってしまう場所はさらにリスクが高くなります。不要不急の会議や集会、外食やイベントなどの参加は避けましょう！

集団発生や感染爆発を起こさないように、それぞれが当事者意識をもって行動することが重要です。



新型コロナは、【3つの顔】をもつ感染症！

「病気やウイルス」という名の感染症、「不安」という名の感染症、「差別や偏見」という名の感染症の3つの顔を持つことが新型コロナウイルス感染症のような新興感染症では、過去の歴史より明らかになっており、実際、今の世界や日本各地でそのような言動・行動がみられてきています。

SNSやおおるマスコミ報道から、正しくない情報・根拠の十分でない憶測の情報などがあふれています。冷静になり正しい情報かどうかを確認のうえ、それぞれが当事者意識と相手の立場にたって考え、発言・行動をしましょう。自分だけが踏ん張っている、自分は無関係だと考えては乗り越えられません。